

## サンフランシスコ日本語補習校(SFJCS) 校歌

いつか世界の架け橋に

朝日かがやく学び舎に  
カリフォルニアの空高く  
明るい笑顔 弾む声  
共に学んだ思い出を  
いつか世界のいつか世界の  
架け橋に

夕日に映える金門橋に  
太平洋の風渡る  
さらめく瞳 若き夢  
共に育てた ああ友情を  
いつか未来のいつか未来の  
架け橋に  
いつか世界のいつか世界の  
架け橋に



創立50周年記念祭を開催した際、1400人ほどの幼児・児童・生徒がいっしょになって校歌を合唱し、SFJCSの人文字をつくって50周年を祝いました。

URLをタップしてサンフランシスコ日本語補習校の校歌を聴いてみよう  
<https://drive.google.com/file/d/1mqxt1OHR2qL07p7uAdI7LGTUyycFAGOD/view?ts=620d9344>

「コロナ禍によってオンライン授業になったとき、本校の保護者で結成される合唱団が、対面時の子どもたちの様子を収めたビデオ上に校歌を乗せ、子どもたちに対面授業時代の思い出と希望を与えてくれました」

「世界の架け橋に」  
という思いを  
胸に抱いて

本校の創立は一九六九年。二〇一九年に五十周年を迎え、現在、幼児・児童・生徒が約一四〇〇人、教職員が約一四〇人いる世界で最も規模の大きい補習授業校となっています。

創立二十周年記念の年に、当時の高校生から「校歌をつくってはどうか」という意見が出て、派遣教員の監修のもと、その高校生たちが歌詞を書きました。国際人ということばを頻繁に耳にするようになったところで、サンフランシスコの象徴でもある金門橋にイメージを重ね、「世界をつなぐ架け橋となりたい」という生徒たちの願いが込められています。

歌詞にはカリフォルニアの高い青空、太平洋から吹き渡ってくる風、そして金門橋など、本校を取り巻く、明るく、清々しい環境のなかで学習する子どもたちの姿がうたわれています。彼らがこの学び舎を離れたのち、さらに成長して国際人と

して羽ばたくという胸に秘めた思いを感じていただけたらと思います。作曲は「上を向いて歩こう」を作曲した中村八大さんです。

「世界の架け橋になりたい」「未来の架け橋になりたい」という歌詞に込められた思いがなんだかものすごく素敵だと思います。私は校歌を聞くと、自分が何でもできるような気がしてきます。(小6)

前に進む勇気が湧く。これまでにも歩んできた友達への感謝の思いが込み上げる。澄み切ったカリフォルニアの青い空、学び舎で過ごした友との大切な時間が、夕日に映える金門橋の姿と共に私たちの心に生き続ける。(高1)

サンフランシスコ・ベイエリアの澄み切った蒼く高い空のもと、眩しい光を浴びながら歌い上げることでできる校歌です。幼児から高校生までの全校の子どもたちが、これから花開くことを予感させるメロディーと、世界に貢献しようとする力強い決意を感じる歌詞は、卒業生や在校生に親しまれ、これからもみんなの校歌として歌い継がれていくことでしょう。(学校長)